



平成20年 2008.4.13



編集・発行 三鷹市教育委員会 東京都三鷹市下連雀9-11-7

# MITAKA Education Board みたかの教育

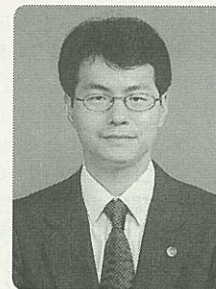
紙面から 2面／平成20年度の主な施策・予算  
3面／第二中学校体育館が完成 4面／平成20年度市民大学講座

三鷹市教育委員会 ☎0422-45-1151

総務課(3213)・学務課(3233)・指導室(3247)・生涯学習課(3313)

スポーツ振興課(3324)・社会教育会館 49-2521・図書館 43-9151 ( )内は内線番号

## 少年事件から みえてくるもの



教育委員会委員長  
職務代理者  
いそがえ 礎谷 文 明

私は、本業が弁護士ですので、非行少年と呼ばれる子どもたちと向き合うことがあります。少年事件を受任して、はじめて子どもと会うために少年鑑別所に向かうとき、実はいつも何となく憂うつです。とんでもない凶悪少年なのではないか。まともに話が通じなかったらどうしよう。しかし、実際に面接室に入って、私の目の前に座っているのは、まだあどけなさが残る10代の少年なのです。

非行の直接の原因は、非行の内容と同様にさまざまです。しかし、子どもの心のとびらを聞いてみると、ほぼ間違いなく見えてくるのが、子どもの自己評価の低さです。自分を大切に思えない。自分をどうでもいい存在と感じている。これは裏を返せば、子ども自身が、自分が愛されていない、自分が尊重されていない、と感じているということです。非行の共通項ともいえるべき低い自己評価は、その子の生い立ちをそのまま表現しているといえるでしょう。

最近の子どもたちは、むしろ傍若無人だという反論があるかもしれませんが。今どきの親たちは甘すぎるという指摘もあるかもしれませんが。しかし、一見自信過剰な仮面の裏側には、しばしば脆弱な自分が隠れているのです。確かに親たちは最新のゲーム機やお金をふんだんに与えているのですが、子どもたちはそういったものが本当の愛情でないことを見抜いているのかもしれない。

自分を大切に思えない子は、周囲がどんなに話をしても響きません。薬物にふける女の子に「自分を大切にしなきゃ。」と説いたところで、自分をどうでもいいと思っているその子は、きっと「ほっといてよ。」というだけでしょう。こういう場合、更生の糸口を見つけることはなかなか困難です。

「あなたは大切な存在なんだよ」ということを、子どもたちに伝えていく。単に言葉だけではなく、全身全霊で伝えていく。そんな教育であってほしいと思います。